

インディアンフルート奏者、真砂秀朗さんのナチュラルライフ

日本人であるまえに、地球人。

その感覚に、音と視覚で響き合う喜び

風薫る5月、街中に新緑が溢れ美しい季節になりました。

深呼吸をすると植物のエネルギーが体の隅々まで満たしてくれるようですね。

読者の皆さん、お元気ですか。音楽ナビゲーターの武田はるかです。

今月はアーティスト&ミュージシャンとして、ご活躍中の真砂秀朗さんにお話をうかがいました。

私も音楽番組をきっかけに10年ほどお付き合いがありますが、初めて聞くお話たくさんありました。

葉山のご自宅にお邪魔して、音楽はもちろんネイティブカルチャーの旅、米作りのお話なども伺いました。

ゆっくりナチュラルライフを楽しんでいらっしやる方ですよ。

お話し／真砂秀朗さん インタビューと文／武田はるかさん（パーソナリティ）



日本人の

アイデンティティは何か、

旅で答えを集めていった

今までネイティブカルチャーの旅を続けて、たくさんの民族楽器と出会ってきた真砂さん。

「僕は学生の時一回ドロップアウトして、ヒッピー的なところに向かっていたんですよ。入りたい社会が無かった（笑）。高校生くらいの時にアメリカのカウンターカルチャーの影響をダイレクトに受けたせいです。当時、ヒッピームーブメントとかポプ・ディランとかがガンガン出始めて意識の変革がまさに起こっていたときでした。」

そこに同調していたから日本の社会に入る余地が無くて。その流れで学生時代ヒッピーを追い求めてインドへ行ったんだけど、自分がヒッピーではなく、ギターを弾いて歌っている姿もなんか自分じゃないなって気づいて。やっぱりアジア人、東洋人だって気がついて帰ってきた」

そこから真砂さんの本当の旅が始まる。

「日本人のアイデンティティは何なのかを見つけるために旅に出て、ひとつずつ答えを集めていったんです」



そのひとつの答えとして16年前に初めてのオムニバスアルバム「しおのみち」が生まれ、AWAレーベルが立ち上がった。当時はプロデュースの役割をされ、  
「自分が旅で出会った楽器と、その民族楽器で新しい音楽を作っていた人たちが身近にいた。そこから自分の音楽が始まったんです。」



日本ほど世界中の民族楽器を演奏する人がいる国っていないと思うのね。「しおのみち」はいわゆる民族音楽の再現ではなく、その音いいよねっていう感性があつて、それで日本の音色にアレンジしているところが面白い。日本人には外のものを受け入れる器があるんだよね」  
「自身はアフリカのカリンバやインドの横笛で参加して、多国籍な楽器がうまくアルバムの中でひとつに調和している。これが真砂さんの探してきた日本人のアイデンティティである。器性。」

「その精神性って多分、縄文期にあると思う。日本文化ってそこに深くあつて、それで太鼓とかカリンバが僕の感性に響くんですよ。そこにもう一度立ち戻って、どれだけ汲み上げてこられるか。そのようないろんなものを自然に受け入れられる器性って、やはり「空」なんだと思う。縄文って古いんだけどそこが新しいと僕は思っているんだよね。非常に未来的で自然と一体になって生きる感性。農耕に限らず、そこを膨らましていきたい」と。

**生活もすべて、  
演奏の延長になつていく**  
「しおのみち」から4年後、初めてインディアンフルートのアーティストトとして「チャコジャーニー」をリリース。チャコジャーニーの中の自然の中で録音したこの作品は彼の中のスペシャル。ここから真砂さんの「本編」が始まる。

「それまでがブローグっていう感じ。92年に初めて北米に行つてホビヤナバホの人たちに出会った。インディアンフルートは前から知ってたけど、改めてここで出会えたのは大きかった。でもね、北米でネイティブな楽器って笛と太鼓しかないですよ。笑。日本も神社の音楽って笛と太鼓と木の葉の鈴でしょ。ベシツクな楽器というのは世界共通なんですよ。」

「折りに直結しているネイティブな楽器。しかも木の笛は人間の息そのもの、その人のすべてが音になる。」「どんな楽器でもそうだけど特にインディアンフルートはそうだと思う。ある意味シャーマニックな世界になる。そうすると毎日の生活、たとえばおの食べのお米を自分で作るのかね、すべてが演奏の延長になるんだ。そうやって、どんどんライフスタイルが自然に近づいていった」

**自然とつきあうには  
流れを待つことが大切**

田んぼ作りを始めて今年で7年。「お寺で演奏したら、棚田を紹介されて与えられたんだ。小さい頃やつたでしょ、砂場で山作って水を流したり。そういうのと一緒に面白いんですよ、遊び感覚で。それとひとつの谷でひとつの世界になっているから、虫から猛禽類までひとつの生態系とつながっている。だから何するでもなく一ひちやうわけよ。花も鳥もすべてあるからね、それだけで充分楽しい」と笑う。

国をこえて、無意識へひびく  
合言葉のようなサインを出し続けたい。

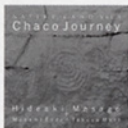




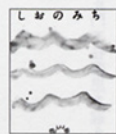
『真南風/マーバイ』(2001)  
Ishigaki Kinsei + Hideaki Masago + Masami Endo



『Planet Love プラネットラブ』(1997)  
Hideaki Masago



『Chaco Journey チャコジャーニー』(1995)  
Hideaki Masago, Masami Endo, Takuya Mori



『しのおのみち/オムニバス』(1991)

※CDはすべてAWAレーベル

## Hideaki Masago 真砂秀朗さん

アーティスト/ミュージシャン。世界各地のネイティブカルチャーへの旅の体験から、民族楽器を生かした独自の音楽を創作し、同時にヴィジュアルアート分野で活動するアーティスト。自然と共に生きることをテーマに音楽創りを始め、'91年に「しのおのみち」などのシリーズを発表。その後、北アメリカ南西部への旅を重ね、インディアンフルートや笛を生かした新たな表現が始まる。ジャンルにとられないスピリチュアルなミュージシャンたちとの出会いの中で7枚のアルバムをリリースし、さまざまなメディアで楽曲が使用されている。「2005愛地球博・地球市民村」では7回の満月コンサートをプロデュースし、コラボレーション演奏をした。



小さな谷に5枚の田んぼが段々にあって、そこだけ別世界のよう。まるで太古の日本にタイムスリップしたような素朴な風景。「一日の中でも絵を描いている時間と田んぼに行つて体を動かす時間とがあつたり、それを自分でコントロールして、その代わり季節や天気によって、その代わり季節や天気に敏感になる。一日に10回くらい天気予報見ちゃうし(笑)。お米を作るって実働時間は少ないけど、天気が一致してないと意味が無いんだよね。自然とつきあうというのはね、本当にちっちゃいことだけど何が正しいかはその時いえないっていう意識がすごく高まるの。ある程度自然の流れを待つて、大体流れが見えたところで判断するわけ」

そうすると取まるところに取まる。自然が授けてくれた教習。

「田んぼをやった最初の年に稲をかきわけて草取りをしていたら、イーグルの羽があつたんですよ。トンビだったんだけどね」

まるで啓示のように。

「ネイティブアメリカンの世界ではそういうことなんです。羽ついているのは意味がある。田んぼつて祝うはくれたサインだ」と顔をほころばせる。この年に三線の石垣金星さん、シンセ・ギターの遠藤昌美さんとのコラボ「真南風」をリリース。

「西表島の鳥唄とインディアンフルートとシンセで、米作りの種まきから収穫までをずっと追った鳥唄のアルバム。それと同時に進行で田んぼ作りが始まったんだ」

シンクログが起こつていった。真砂さんとお話しているとき時間の流れがゆつくりになり、急いでいた自分のペースが緩められたようではつとる。そう、何に急いでいたのだろうか…。

## 日本人は本来、「地球人」としての意識が高い民族

真砂さんのベースは北米の大自然の風の中だと思つていたので、日本人

「地球人であるということ。日本人である前にね。本来の日本人はすごくそういう部分があつたと思う。何万年も地球人で生きてきてそこから日本人になっている。それは世界中の人がそうだけど、特に日本人というのはその要素が大きいと思う。だから何々国じゃなくて、向こうの方に住んでいる同胞たち」なんてですよ。そういう世界を僕はイメージしちゃうし、それができることが喜び。そこに同調するための感性が音であつたり視覚であつたり、自分の

中でそれを見つつけ繋ぎ合うためにやつている。

僕が描いている岩絵もそう。アメリカやアフリカにある岩に刻んであるペトログリフを見ていくと共通なんですよ。だからその当時は地球文化なんだよね。人間イコール地球人っていう感じ」と人種や国境を越えたところにスピリットがおかれていた。「作品の意味はサインだと思つていて、いかに共通意識に響くいいサイエンスを作るかが課題。無意識のところまで響く合言葉のようなサインを出し続けていきたい」

世界を巡り答えを求めてきた旅人が、今は葉山の田んぼに宇宙を見えています。地球人の真砂さんの瞳は戦争とセットで使われる「平和」よりも深い世界を静かに見つめていました。今の地球には平和という言葉はまだ使わなければなりません、いつの日か、それすら存在しない調和した世界になることを祈ります。皆さんの毎日が温かく平安でありますように。

## コンサート情報

### Hideaki Masago

■真砂秀朗ネイティブフルート コンサート

「風のうた 星のうた」

6月5日 open 18:30 start 19:30

晴れたら空に亘りて (東京・代官山)

Tel: 03-5456-8880

http://www.mameromantic.com

■その他、展覧会やライブスケジュール

http://www.awa-muse.com